

知の蓄積と活用にむけた方法論的研究

第 69 回早稲田社会学会 2017 年度大会

2017 年 7 月 8 日（土）早稲田大学戸山キャンパス第 1 会議室

【共催】

〈一般報告〉

清水克郎（岩波書店）「ボブ・ディランの社会学」

酒井宏明（早稲田大学文学研究科）「『社会の心理学化』論の再検討」

大坪真利子（早稲田大学文学学術院）「『常人の視覚』における同性愛者の不可視性の問題について」

大窪彬夫（早稲田大学社会科学部研究科）「『社会分化論』の再解釈の試み」

〈シンポジウム テーマ：「人文・社会科学の危機」を考える〉

田中千津子（学文社）「苦境に立つ学術専門書の飛躍を思う——編集者の現場からの視点」

太郎丸博（京都大学）「科学の政治化と社会学の『危機』」

松本三和夫（東京大学）「学術と社会の境界面で想起すべきこと——科学社会学者の視点」

討論者：那須 壽（早稲田大学）・山田 真茂留（早稲田大学）

司会者：大黒屋 貴稔（聖カタリナ大学）・関水 徹平（立正大学）

閉会の辞：浦野正樹（早稲田大学）

＊早稲田社会学会共催

第 11 回部門研究会

2017 年 11 月 18 日（土）早稲田大学第 11 会議室

【主催】

1. Bernard Thomann（INALCO、東京外語大学客員教授）“Labor rationalization in Japan coal mining industry from the early 50s to the 70s”
2. Chelsea Szendi Schieder（明治大学）“Daughters of the Mountain: Women in Coal Communities”
3. 宮本隆史（東京大学）“Evolution of Prison Archive in Miike: A Case Study of Kikuchi Tsuneki's Letter”
4. 坂田勝彦（東日本国際大学）「産炭地域の＜戦後＞史——杵島炭鉱の元労働者の経験から」
5. 菊池美幸（九州大学・博士後期課程）「近代日本における炭鉱病院の機能と役割」
6. 笠原良太（早稲田大学・博士後期課程）「歴史的出来事との遭遇と青年たちの危機的移行——炭鉱の事故・閉山によるライフコースの攪乱と軌道修正——」
7. 清水拓（早稲田大学・博士後期課程）「太平洋炭鉱労働組合の機械化への態度——ミニ新聞『5分間ニュース』の分析から」
8. 崔允瑞（北京大学・博士後期課程）「戦後日本の炭鉱都市女性組織と女性活動家の経験：北海道炭鉱主婦会・炭鉱主婦協議会の事例を中心に」